

令和元年度
第2回香美市まちづくり委員会会議録

日時：令和元年10月17日（木）午後6時半～午後8時
場所：ふらっと中町
出席者：まちづくり委員 22名
農政課2名、教育振興課2名、子育て支援センター1名、定住推進課2名、
生涯学習振興課2名、中央公民館1名、図書館1名、商工観光課1名、
健康介護支援課2名、建設課1名、企画財政課4名
欠席者：3名
会長：山崎眞幹委員
副会長：中村健委員

・会長開会のあいさつ

【協議内容】

1. 第1期・第2期まちづくり委員会の提言の進捗について（各担当課職員と意見交換）
＜提言（第1期）への市の取り組みや方向性について＞

1、土佐山田駅・アンパンマン・観光関係

・土佐山田駅の橋上通路に関する市の取り組みとして、建設課は「駅の橋上化及びバリアフリー化の計画はない」としているが、一方で定住推進課は「整備要望を行う」となっているのはどういうことか。バリアフリー化は新聞等で1日の乗降客3千人以上が対象と言われているが、まだ要望するのか。

→この件だけではなく、JRに努力をお願いしなくてはならないことは継続的に要望していく。3千人以上というのは国の補助に関することで、JRにはその後変化はないかという確認をしていく。（定住推進課）

→自由通路についてはJRには承諾をもらっているが、金額が9億位かかり、エレベーター南北2台の維持管理が毎年2百万位かかってしまう。自由通路を作ることによって、電気代や保守管理や橋上点検のため年間4百万位ずっと払っていかねばならなくなるので、検討をしているところである。（建設課）

・アンパンマン関連の著作権について、誰がどのような交渉をしたのか。

→観光担当からアンパンマンミュージアムの財団を通じて確認したところ、アンパンマンの名称を駅名にすることや、ツアーを開発することは著作権上無理とのことで、「ザ・シックスダイヤリーホテルかほくアンドリゾート」と駅前の「いんぷおめーしょん」は特例で認めてもらっているものである。その代わりに、やなせ先生に香美市のイメージキャラクター13体を作ってもらった経緯がある。（商工観光課）

・香美市全体の情報を「多くの機関から発信する方が効果的」とのことだが、具体的に検討しているのか。

→市役所でもHPやフェイスブックなどで情報発信する機能はあるが、公的機関ではある一定の営利を目的とするものを扱うのは難しいので、龍河洞や観光協会などそれぞれ

れのHPで情報発信をしていく方がより多くの効果があると思われる。(商工観光課)

- ・「新しい体験観光を観光協会と共に開発していく」というH28年度の市の取り組みや方向性の結果が、現状で出ているのではないか。
- 観光協会の委員会で協議し、ノルディックウォーキングや史跡巡りなどがやっと形になってきたところである。また、物部川DMO協議会でも物部川流域全体で体験できるツアーを行っており、それを受けて香美市でも独自に開発していきたいと考えている。(商工観光課)
- ・行っているのであれば記述するべきではないか。
- 記述するようにする。(商工観光課)

- ・日曜市は現在25店ほどしか出店しておらず、客も少ないが、行政としての位置づけはどうなっているのか。
- 今年2回程、日曜市組合と協議を行っているが、市としての補助は難しい。工科大生や高校生が入って盛り上げてもらうなどの振興策は考えてもらっているが、根本的な解決には至っていない。(商工観光課)
- ・フリーマーケットと一緒に رفتりしてはどうか。出店費用が2、3千円位と高く、その点なども市として真剣に考えているのか。
- 日曜市は日曜市組合が運営しており、市が補助する団体ではなく、金銭的なことや運営に市が関与するのは難しい状態である。日曜市のいろんなイベントを情報発信することなどはできるが、団体への仲介は今のところできない。
- ずっと続いてきた風物詩で、香美市に足を運んでもらうイベントの一つなので、出店者減に歯止めをかけるアイデアを出したいが、提言などもできていないのが現状である。(商工観光課)
- ・補助できないということだが、打開策はないのか。
- 商工会や観光協会も一緒になって協議を行っていききたい。(商工観光課)
- ・ジビエ料理の食堂を開いてみてはどうか。

2、商工業・農業・林業

- ・鍛冶屋総成塾が開塾し、3名の研修生を迎える予定とのことだが、生活していけるのか。
- 鍛冶屋として一定の技術がないと生活は厳しいので、研修中に相談しながら進めていくとのことである。(商工観光課)
- ・「香美市中心商店街活性化計画の策定」はどの位進んでいるのか。
- 計画自体はまだできていなくて、10月中か11月初旬にワークショップを開いて、今後計画を定めていくことになっている。(商工観光課)
- ・ゆずの出荷量が日本一だが、せっかくあるものを活かせる方法はないか。
- 青果として物部のゆず玉が日本で、ゆず部会の意向はゆず玉自体に力を入れてやっていくとのことで、協力して取り組んでいる。地理的表示保護制度(GI)で「物部のゆず」として全国に売り出していくために認可を受ける手続き中である。(農政班)

- ・木質バイオマスや水力発電は温暖化防止にも役立つので、できるものは補助を行い、ぜひ進めてほしい。
- ・「事業化」は具体的にどのように進められているのか。

→高知市仁井田にバイオマスの工場があり、そこに森林組合が市内のバイオマスを供給しており、新規事業として香美市内でバイオマスの発電を行うのは、原料の問題で難しい状況である。ストックヤードにあるバーク（木の皮）を活用して事業ができないか研究してみたいという業者が相談に来ているが、事業化にかかる経費が2億以上とのことで、実際受けてくれる業者がいるかどうか、原料の数量の問題や継続可能性から事業化は難しい。（林政班）

- ・バーク堆肥の面ではどうか。

→森林組合のバークはいろんなものが混じっており、処理する際はお金を払って処分しているので、採算や管理方法などから難しい。（林政班）

- ・中山間直接支払制度から漏れている地域がたくさんあり、河川の整備なども含めて、工科大でロボット開発を研究している先生がいるので、草刈のロボットを開発してもらったりすれば良いが、市から工科大への働きかけはどうなっているのか。

→工科大とは連携協議会で年2回協議を行っており、工科大は香美市において非常に重要な位置づけで連携を強化していく予定だが、具体的にロボットなどの話し合いはまだされていない。（企画財政課）

- ・工科大は農業に関連するロボットや介護ロボットの開発などたくさんの領域があり、深刻な人手不足対策になるので、積極的に案を出して働きかけていただきたい。

3、移住関係

- ・市街化調整区域の一部緩和について、高知広域都市計画の縛りがあり、勝手に規制緩和すると人口の取り合いになるため、規制緩和できないのではないかと。

→香美市は高知広域都市計画に入っていて、市街化区域と市街化調整区域があり、市街化調整区域には規制がかかっている。空き家や人口減少の問題から、ある一定のエリアを賃貸できるような緩和の方策を考えている。現在でも、条件が合えば市街化調整区域でも家を建てることのできるし、市外から来た人に一旦賃貸で住んでもらい、気に入ればそこをかうという緩和をしていきたいと考えている。しかし、市街化区域の街中の空洞化もひどく、人口密度が減るとスーパーなどが撤退する恐れもあり、市街化区域の人口1万人は維持していきたいと考えている。（建設課）

4、子育て・教育

- ・交換留学先についてオーストラリアは費用と時間がかかるが、それ以外の留学先は考えているか。

→オーストラリアのイマニュエル小学校は国際バカロレア教育の認定校という関係もあり、2年に1回ホームステイをしている。（教育振興課）

- ・バカロレア教育の恩恵はより多くの小中学生が受けないとボトムアップにならない。負担の少ない教育費で、多くの子どもがグローバル化の恩恵を受けられるような取り組みをお願いしたい。

- ・グローバル化社会を目指すためには、ALTを香美市内の各小中学校に1名ずつ配置し、休み時間もALTと関われる体制を作るべきである。今後増やしていく予定はあるか。
→増やしていくかどうかは承知していないが、各学校に1名必要という意見は帰って報告させてもらう。(教育振興課)
- ・オーストラリアは時差がほとんどないので、インターネットスクールなどの構想は入っていないか。交換留学を行っているならば授業の中に組み込むこともできると思われるので、今後検討をお願いしたい。

5、図書館・文化ホール

- ・文化ホールについて、今現在あるホールを改良して有効利用していく動きはないか。
→現在は行っていないが、検討していく。(生涯学習課)
- 中央公民館を維持管理して、整備を更新していくということである。

6、健康福祉

- ・介護予防事業で「70歳の同窓会」を開催しているが、高齢者だからと言って体が不自由とか頭の回転が遅いという訳ではないので、有名な講師などを呼んで市民大学のようなものを開催して、もっと前向きな話を聞けるような内容にするべき。
→75歳になると介護認定率が上がってきて、年齢を重ねるごとに認定率が高くなる。元気に高齢期を過ごすことが健康寿命を延ばしていくのに大切なことだと考えており、元気な期間をできるだけ延ばしていただきたい。
去年から「70歳の同窓会」を開催しているが、70歳はまだまだ元気で、今からの高齢期を考えてもらう一つのきっかけづくりや、退職して人とのつながりが少し希薄になってくる時期にもう一度同窓生ということで新たなつながりを作るのが目的である。内容は70歳になる市民の方に企画員になってもらい、一緒に考えて行っている会なので、続けて開催して新しい動きにならないか期待を込めて行っている事業である。
また、「未来のはてな」という介護予防講座も行っており、80~100名ほどが聞きに来てくれている。(健康介護支援課)

- ・「世代間交流の場」では、具体的にどのような交流が行われているのか。認知症支援の啓発についても映画ではなく、具体的にどのようなことが行われているのか。例えば、認知症サポーターの資格を香美市の小学生から高校生まで全員に取ってもらうなど認知症のサポートに強い市を作るなどの大きな目標を掲げて良いのではないか。
→サロンイベントでは、夏休みを通して竹とんぼ作りなどを保育園児や小学生と高齢者の方が一緒に行ったりしている。
認知症の啓発の映画は昨年と今年行い、認知症を理解する目的が一番大きいですが、認知症サポーター養成講座も今後ぜひチャレンジしていきたい。(健康介護支援課)
- ・核家族化で高齢者と接触する機会が少なくなっているので、行政と教育の場が連携して、交流する場を作るよう積極的に行ってほしい。

8、交流・協働

- ・No.1の提言の趣旨と回答が違っている。歩いて来るのが無理な高齢者を車で送迎なども

しながら、地区の公民館で敬老会を開催しているが、地域で行うしくみを作るという提言に対して、中央公民館やあつたかふれあいセンターで行っているというのは回答になっていない。

→中央公民館として食事をする機会を設けることは考えていない。他の地区公民館で行うということは多少考えるが、持ち帰って考えたい。(中央公民館)

→介護予防では地域の集いの立ち上げをした後に各自主グループに出向き、レクリエーションの指導や地域のリーダーの方との情報交換など集いの支援をしている。集いごとに、定期的と一緒に食事を行ったり、年に数回食改さんと一緒に食事を作るなど、運営は地域の集いの皆さんに任せている。地域の歩いていける場所で集いを行うことが大事だが、高齢化に伴ってそこまで行けないという問題が大きくなってきている。

集いは土佐山田圏域で30箇所、香北で15箇所、物部で10箇所程度ある。市役所が把握している以外にも個人的に行っているグループもある。(健康介護支援課)

・土佐山田地区で自治会が190位あるのに対しての50箇所なので、そこで満足してもらっては困る。

<提言（第2期）への市の取り組みや方向性について>

時間の関係で第1期の提言しか協議できなかったため、第2期の提言については後日事務局から質問用紙を送るので、それに対して回答させていただく。